

久留米広域定住自立圏

中心市宣言書



平成21年3月30日

久留米市

久留米広域定住自立圏 中心市宣言

現代の日本社会は、少子・高齢化や人口減少、グローバル化、高度情報化、環境との共生やエネルギー問題など、時代の大きな潮流に直面しており、様々な問題が多様化・高度化しながら進展しています。これから迎える本格的な21世紀への道は、都市経営においても、このような環境変化を将来の視点からの確に見極め、自己決定・自己責任の原則のもと、自立した都市づくりが求められています。

そのような環境変化の中、九州一の大河・筑後川にはぐくまれ、筑後平野の中央に位置する久留米市は、水と緑の豊かな自然に恵まれるとともに、交通の要衝に位置しており、古くから筑後地域の中心都市として発展の歴史を重ねてきました。

その久留米市を含む久留米広域圏域は、遠い昔から圏域を横断する筑後川を中心として、歴史や文化、日常生活に至るまで多くの共通性を持ちながら発展し、現代においても、公共交通ネットワークやモータリゼーションの進化により、圏域の住民は、一体的な生活範囲として、市町境・県境を意識することなく日常生活を送っています。

また、4市2町（久留米市、大川市、小郡市、うきは市、大刀洗町、大木町）で構成される久留米広域市町村圏においては、圏域の一体的な発展と住民の利便性向上の観点から、小児救急医療や観光振興などの分野で広域的な取り組みを行っており、行政的な面からも連携を深めています。

しかし、現代の少子・高齢化をはじめとした地方を取り巻く問題は、本圏域においても例外ではなく、今後の本圏域の活性化と発展の継続のためには、圏域の市町村や地域社会が、それぞれの有する都市機能や地域資源を活用し合いながら、一体となってこの問題に対して取り組み、圏域の活力を維持しながら、生き生きと安心して生活していける久留米広域圏域を築き上げることが必要となっております。

こうした状況において、九州の南北軸と東西軸が交差するクロスポイントに位置し、九州各地域との交流に最も利便性が高い本圏域は、九州の経済・文化等の一大交流拠点として今後大きく発展するポテンシャルを秘めております。

久留米市は、これまでの歴史や文化、久留米広域圏域での連携の状況などを踏まえ、圏域市町をはじめとする他の自治体とのネットワークにより、個々の地域が個性を発揮できる魅力と活力にあふれた「久留米広域定住自立圏」の形成を目指し、その中心市として、役割と責務を十分に認識しながら、地域全体の発展のために尽力していくことをここに宣言いたします。

平成21年3月30日

久留米市長 江 藤 守 國

I 久留米市における都市機能の集積状況と利用状況

久留米市は、政令指定都市である福岡市、北九州市に次ぐ人口約30万6千人を擁し、また商圏人口約62万人を誇る福岡県南地域で最大の都市です。本市には、公共施設等による各種サービス機能、中核的な医療機能、大規模商業・娯楽機能、その他行政及び民間分野に係る都市機能が集積し、広域的に活用されており、より高次な定住自立圏を形成する拠点都市としての機能が確保されています。

1 医療機能

久留米市は、九州の医療拠点としての役割を果たす久留米大学病院や乳幼児医療では世界的知名度を有する聖マリア病院をはじめ、35の病院と300を超える診療所が集積しており、また、人口1万人当たりの医師数は全国の政令市・中核市で第1位を誇るなど、高度な医療機能の集積した高度医療都市です。

また、医療機能の集積を背景として、平成18年4月からは準夜帯（19時～23時）に小児科医が交代で診療にあたる久留米広域小児救急センターを開設するなど、広域的な医療機能の提供にも努めています。

【医療施設の集積状況】

病院機能	主な施設名
二次救急医療体制	医療法人楠病院、医療法人天神会新古賀病院、聖マリア病院、弥永協立病院、医療法人松風海内藤病院、久留米大学医療センター、社会保険久留米第一病院、花畑病院、神代病院、田主丸中央病院、医療法人吉村病院、富田病院、医療法人寺崎医院、野口医院、安本病院、矢野医院
三次救急医療体制	久留米大学病院高度救命救急センター（九州唯一）、聖マリア病院救命救急センター
周産期母子医療センター	久留米大学病院（総合）、聖マリア病院（総合）
がん診療連携拠点病院	久留米大学病院（地域拠点）、聖マリア病院（地域拠点）
特定機能病院	久留米大学病院
地域医療支援病院	聖マリア病院
災害拠点病院	久留米大学病院、聖マリア病院

2 教育・研究機能

久留米市は、久留米大学、久留米工業大学、聖マリア学院大学の3大学と、久留米信愛女学院短期大学及び久留米工業高等専門学校を有し、1万人以上の大学生等と1千人以上の教員を抱える高等教育機関が集積している都市です。

また、福岡県工業技術センター生物食品研究所、福岡県森林林業技術センターなどの試験研究機関も集積しており、そうした学術研究機能を核として、新たな学術研究機能を集積することにより、九州北部における学術・文化・産業の「創造的な拠点」づくりを目指す久留米学術研究都市づくりに取り組んでいます。

さらに、先端医療開発特区（スーパー特区）に採択された「がんペプチドワクチン療法の開発」など国内有数の先端的研究開発や福岡バイオバレープロジェクトの推進によるバイオ関連産業・研究機関の集積も進んでいます。

【久留米市内の大学等の学生及び教員数】

（単位：人）

学校名	学生数	教員数
久留米大学	7, 577	846
久留米工業大学	1, 106	74
聖マリア学院大学	343	39
久留米信愛女学院短期大学	331	29
久留米工業高等専門学校	1, 142	81
計	10, 499	1, 069

※ 学校基本調査（平成20年5月1日時点）

【久留米市内の主な試験研究・開発支援機能】

- ・（独）農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター（久留米拠点）
- ・ 福岡県森林林業技術センター
- ・ 福岡県工業技術センター 生物食品研究所
- ・ 福岡県農業総合試験場 果樹苗木分場
- ・ 国土交通省九州地方整備局九州技術事務所
- ・ 久留米知的所有権センター
- ・（財）化学物質評価研究機構 久留米事業所
- ・（株）久留米リサーチ・パーク
- ・ 福岡バイオインキュベーションセンター
- ・ 福岡バイオファクトリー
- ・ 久留米ビジネスプラザ

3 文化・学習・体育機能

久留米市には、石橋美術館、福岡県立青少年科学館をはじめとした市内外から幅広く利用される文化施設、座席数1,000席以上の大型文化ホール、蔵書数60万冊を超える図書館機能、多くの大規模な大会が催される久留米総合スポーツセンターなど、広域的に利用される高度な文化・学習・体育機能が集積しています。

また、久留米市を含む4市2町（久留米市、大川市、小郡市、うきは市、大刀洗町、大木町）で構成する久留米広域市町村圏では、平成12年4月より図書館の相互利用の取り組みを開始しており、久留米市以外に居住する方の利用登録が全体の1割近くに達しています。

【久留米市内の主な文化・体育等施設】

都市機能	主な施設名
美術館・科学館等	石橋美術館、福岡県立青少年科学館、草野歴史資料館、山辺道文化館、有馬記念館
大型文化ホール	久留米市民会館、石橋文化ホール、そよ風ホール、インガットホール
生涯学習施設	生涯学習センター「えーるピア久留米」
図書館	中央図書館、田主丸図書館、北野図書館、城島図書館、三潴図書館
公園	浦山公園（総合公園）、中央公園（運動公園）、リバーサイドパーク（都市緑地）、水沼の里2000年記念の森（市民公園）、コスモスパーク北野（市民公園）
体育施設	久留米総合スポーツセンター（福岡県立久留米スポーツセンター陸上競技場、福岡県立久留米スポーツセンター体育館、久留米市野球場等）、久留米すみづま総合体育館 久留米市民温水プール、久留米赤十字会館（温水プール等）

【久留米市の図書館の貸出登録者数】

登録者居住地	登録者数	比率
久留米市	57,715人	90.3%
久留米市外	6,175人	9.7%
計	63,890人	100.0%

※ 久留米市立中央図書館資料（平成20年3月31日時点）

4 商業・娯楽機能

久留米市には、約400店舗で構成される中心商店街、久留米岩田屋、ゆめタウン久留米等の店舗面積1万㎡を超える大型店舗等、商業施設が集積しており、また、シネマコンプレックスや久留米市民流水プールなどの娯楽施設も多数存在し、市内外からの来訪者で賑わっています。

平成16年実施した久留米市商圈調査によると、久留米市の買回り品における吸引率は、50%以上が5市町、30%以上50%未満が15市町など、60万人規模の広域商圈を形成しています。(市町数は平成16年当時)

【久留米市の主な商業・娯楽施設】

商業・娯楽機能	主な施設名
百貨店、大規模店舗	久留米岩田屋、ゆめタウン久留米、サンリブ久留米店
シネマコンプレックス	T・ジョイ久留米
ゴルフ場	長門石ゴルフ場、城島リバーサイドゴルフ場
その他娯楽	久留米競輪場、久留米市鳥類センター、久留米市民流水プール、久留米サイクルファミリーパーク、石橋文化センター

【来街者の居住地調査】

調査箇所	市内居住者	市外居住者
中心部商店街	65.1%	33.8%
ゆめタウン久留米	47.9%	51.5%

※ 平成16年度久留米市商圈調査

5 公共交通機能

久留米市は、古くから九州の中でも広域交通の南北軸と東西軸のクロスポイントに位置し、九州自動車道や6本の国道等多くの広域幹線道路が通過するとともに、JR鹿児島本線、西鉄天神大牟田線等公共的輸送機関も充実し、市外各地域からアクセスしやすい交通状況となっております。

また、平成23年春には九州新幹線鹿児島ルートも全線開業し、博多駅での乗り換えが無くなることで、関西、山陽、北九州方面との心理的距離感が短縮され、観光やビジネスなど人の往来が活発になることが期待されています。

【公共交通機能の状況】

交通機能	主な施設名
鉄道網	九州新幹線鹿児島ルート（平成23年春開業）、J R鹿児島本線、J R久大本線、西鉄天神大牟田線、西鉄甘木線
駅	J R久留米駅（新幹線停車予定駅）、西鉄久留米駅（特急停車）、西鉄花畑駅（特急停車） 等
高速道路、国道	九州自動車道（久留米IC） 国道3号、209号、210号、264号、385号、322号

【市内駅の乗降客数（年間）】

（単位：千人）

駅名	乗降客数
西鉄久留米駅	14,449
J R久留米駅	4,380
その他の駅	12,571
計	31,400

※ 西日本鉄道㈱、J R九州資料（平成19年度）

【市内バスの運輸状況】

	1日当たりの運行回数	乗車人員総数
19年度	1,466回	5,360千人

※ 西日本鉄道㈱、堀川バス㈱、日田バス㈱、甘木観光バス㈱資料

【九州自動車道（久留米IC）利用状況】

（単位：台）

	入口台数	出口台数
19年度	4,026,893	4,077,843

※ 西日本高速道路㈱九州支社資料

II 圏域で連携することを想定する取り組み

久留米広域定住自立圏では、圏域全体の発展と圏域住民の利便性向上のため、次の取り組みを推進していくことを想定しています。

1 生活機能の強化

a) 産業振興

① 農商工連携

圏域製品のブランド力の向上や圏域全体における地産地消の推進を目的として、豊富な地元農産物を活用した加工品開発や圏域特産品を組み合わせた商品づくりなどに取り組むとともに、圏域における農産物直売所等の連携を図ります。

② 広域観光振興

圏域内外からの交流人口の増加を目的として、美しい筑後川や豊富なB級グルメ等の圏域の魅力を活かした新たな着地型観光商品（観光ルート、観光プラン等）を開発するとともに、圏域観光の多彩な魅力や新たに開発した着地型観光商品を共同でPRするなど、戦略的な広域観光の振興に取り組めます。

b) 医療

圏域住民への安定的な医療サービスの提供を目的として、小児医療体制の充実のため広域的に実施している久留米広域小児救急センターについて、安定的に維持・継続できるよう、制度運営体制の確立を図ります。

c) その他

上記のほか、生活機能に関する分野

2 結びつきやネットワークの強化

a) 地域公共交通

圏域内外の結びつきやネットワークの強化を目的として、新駅の設置などによる鉄道の利便性向上を図るとともに、久留米市と圏域市町を繋ぐバス路線の維持・確保を図り、圏域内外の活発な交流を促進します。

b) ICTインフラ整備

企業誘致の促進、住民や企業の電子商取引拡大等の地域活性化及び圏域内外の連携強化などを目的として、圏域内の超高速・大容量のブロードバンド網のエリア拡大とその活用を図ります。

c) その他

上記のほか、地域間を結ぶ生活幹線道路等の圏域内連携に関する分野

3 圏域マネジメント能力の強化

a) 人材の育成・交流

圏域における人材の育成と交流の促進を図るため、圏域内の自治体職員の国・県等への派遣や圏域内での人事交流、圏域全体での研修などを行います。

b) 外部からの人材の確保

広域的マネジメントの強化のため、民間企業等経験者の積極的な採用や外部の専門的な人材の活用などを促進します。

III 中心市への通勤通学10%圏にある市町村

久留米市に対して従業又は通学する就業者数及び通学者数を、常住する就業者数及び通学者数で除して得た数値が10%以上である市町村は、次のとおりです。

【久留米市への通勤通学10%圏にある市町村】

市町村名	通勤通学依存率	備考
大川市	10.3%	久留米広域市町村圏構成団体
小郡市	14.7%	〃
うきは市	17.8%	〃
大刀洗町	19.8%	〃
大木町	22.8%	〃
八女市	13.5%	
筑後市	18.6%	
黒木町	10.3%	
立花町	13.7%	
広川町	27.3%	
みやき町	15.8%	

※ 平成17年総務省国勢調査より算出